

附属施設

1. 附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター

1-1. 地域フィールド総合科学分野

(1) 概要, 教育研究の内容

岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター第1分野(農学部内)は,本センターの設置(平成14年4月1日)に伴い新設された分野である。

第1分野は,地域フィールド総合科学分野と称し,その業務内容は,フィールドサイエンスに関する教育研究を企画立案し,農学部と地域社会との窓口(連携調整)の役割を担う。また,地域の活動や課題を調査研究し,総合的フィールド科学教育,地域マネジメント,農畜林複合経営などの実践的な教育研究を行う。さらには,農学部からの協力教員の参加を得て,フィールド科学に関する情報の収集・発信,地域からの支援要請,依頼研究,共同研究を推進する。なお,平成19年4月より地域連携推進機能とエクステンション機能の一部は「地域連携推進室」へ移転した。

(2) 地域貢献

地域貢献事業は,職業的専門家(経営者・技術者等),一般市民・児童生徒を対象に開催されている。職業的専門家が対象の事業には,森林・林業技術者のスキルアップを目指した「フォレストテクニカルエクステンション」などがあり,延べ233人の参加を得た。一般市民・児童生徒が対象の事業では,地場材を利用した家づくりの普及活動「イーハトーヴの森と家づくりフォーラム」や,地域の中学校と連携した総合的学習「フィールドセミナー総合的学習時間における森林学習」,ポランハウスにおけるセンター産の農林産物の直売などが行われ,延べ1,300人を超える参加者を得た。

1-2. 持続型農業生産技術分野(第二分野,滝沢農場および御明神牧場)

(1) 概要

持続型農業生産技術分野は,滝沢農場と御明神牧場から成り立っている。

- ・滝沢農場(所在地:岩手県滝沢市巣子1552,面積43.945ha)

本農場は明治35年に盛岡高等農林学校が創設されるに当たり,校舎敷地内(現上田キャンパス)に設置された附属実験農場が始まりである。その後の新制大学移行に伴い,大学の整備計画の進展と農業近代化に対応するため昭和41年に農林省種畜牧場用地の一部所管換えを受け,滝沢農場が設立された。以後,昭和51年3月に農産製造実験実習棟が新築されたのを始め,温室,果樹収納貯蔵庫,短期学生宿舎が新設されるなど,施設・設備の整備が行われ現在に至っている。また,平成20年3月末をもって乳牛部門は廃止されたため,現在では作物および園芸の2部門を柱に,学生の実習教育や教員・大学院生等の研究に活用されている。

- ・御明神牧場(所在地:岩手郡雫石町大字御明神第8地割字大石野,54.318ha)

本牧場は,明治39年に設置された盛岡高等農林学校附属経済農場に始まる。戦前には文部省第一拓殖訓練所が併設され,多くの若者が満蒙開拓の夢を抱いて現牧場用地の開墾を行った。大学移行後の農学部附属経済農場を経て昭和59年に農学部附属御明神牧場と改称された。ここでは山麓高冷地の立地条件を活かし,家畜の飼養管理と衛生,飼料作物管理とサイレージ調製を中心に実習教育が行われている。近年は,黒毛和種の優良系統を導入するとともに繁殖育成に関する高度な研究が行われている。

(2) 教育研究の内容

実習教育の充実,卒業論文の指導,地域貢献を柱に,教育研究活動を展開している。学内において当分野が担当するのは,作物,園芸,畜産に関する基本技術についての体系的な実習教育である。また,岩手県立大学・盛岡大学・富士大学の实習や岩手県立盛岡みたく支援学校高等部・岩手大学教育学部附属特別支援学校高等部の農業体験実習等を行っている。加えて,当分野のフィールドでは教育学部や理工学部も含めた多様な実験・実習が行われている。地域貢献では「いわてアグリフロンティアスクール」,「御明神

「牧場一般公開」などが行われている。

(3) 実習等

滝沢農場及び御明神牧場で実施する学生実習等は、次表のとおりである。

農場実習・牧場実習（学内向け）

学科・課程名等	科目	単位数	2年(1年)		3年 前期	全学 後期	場 所
			前期	後期			
全国向け教養教育 地域課大演習 H	地域課大演習 H	2				3時間	一部を滝沢農場・御明神牧場で実施
農 学 部	総合フィールド科学実習	1	2時間				1年次全員, 下台, 各フィールド
植物生命科学科	農場実習	1	3時間				滝沢農場, 御明神牧場
食産業システム学 コース	農場実習	1	3時間				滝沢農場, 御明神牧場
植物生命科学科	農場実習	1		3時間			滝沢農場
食産業システム学 コース	農場実習	1		3時間			滝沢農場
植物生命科学科	農場特別実習	1			4泊5日		滝沢農場(宿泊)
食産業システム学 コース	農場特別実習	1			4泊5日		滝沢農場(宿泊)
教 育 学 部	栽培理論	2					一部を滝沢農場で実施
教 育 学 部	栽培理論	2					一部を滝沢農場で実施
動 物 科 学 科	牧場実習	1			3泊4日		御明神牧場(宿泊)

学部実習等への協力並びに施設の利用計画

学科・課程名等	科目	前期	後期	摘 要
動 物 科 学 科	牧場実習	3年		一部を御明神牧場で実施
	動物科学実験 (動物遺伝育種学 動物行動学)		2年	一部を御明神牧場で実施
	動物科学実験 (動物繁殖学)	3年		一部を御明神牧場で実施
共同獣医学科	繁殖機能制御学実習		4年	一部を御明神牧場で実施
	大動物臨床実習応用編	5年		一部を御明神牧場で実施
	産業動物臨床実習	5・6年		一部を御明神牧場で実施
	動物衛生学実習		3年	一部を御明神牧場で実施
東京農工大学 共同獣医学科	参加型臨床実習	5年		一部を御明神牧場で実施
学 生 支 援 課	特別支援学生による活動プログラム	特別支援 指定学生	特別支援 指定学生	特別支援指定学生, 5~10名(全学, 大学院) . 上田下台圃場における, 農作業体験, 栽培体験

学外実習等への協力並びに施設の利用計画

学外機関名	科目	のべ人数	日時	摘 要
附属特別支援学校	実習	50		10月中下旬に5日程度
みたけ支援学校	農場実習	80		滝沢農場で年間5回
盛岡大学	生物学	100	5月9日	一部滝沢農場で実施
岩手県立大学	地域政策講座ゼミ	25	6～11月	一部滝沢農場で実施
富士大学	フィールドワーク	30	8月	一部御明神牧場で実施
	フィールドワーク	30	7月	一部滝沢農場で実施
盛岡大学	地域食材資源論	70	11月	一部滝沢農場で実施

滝沢農場 開放事業等の予定（2019年度）

月日	部門	内容等	担当職員	参予 人数	案内方法等
4月4日(木)	温室	花苗販売	5名	25名	ハガキ50枚で案内
6月16日(日)	果樹	ブルーベリー園見学	渡邊, 村上	100名	岩手ブルーベリーの会(夏期講習会)
7月14日(日)	果樹	ブルーベリー園見学・摘み取り	村上	20名	岩手県サイクリング協会
7月17日(水)	果樹	ブルーベリー 摘み取り	全員	150名	学内メール, ハガキ100枚で案内 次回開催日を掲示
7月24日(水)	有機	エダマメ 摘み取り	全員	100名	次回開催日を掲示
	果樹	ブルーベリー 摘み取り			
7月31日(水)	有機	エダマメ 摘み取り	全員	70名	
	果樹	ブルーベリー 摘み取り			
8月7日(水)	実習	ポラン販売会	5名	200名	オープンキャンパスの日に実施
9月9日(月)	有機	エダマメ 摘み取り	全員	50名	学内メール, 岩手有機農業連絡協議会へ案内
11月29日(金)	実習	ポラン販売会	5名	200名	
12月11日(水)	果樹	リンゴ販売会	4名	50名	ハガキ100枚で案内
1月15日(水)	果樹	リンゴ販売会	4名	30名	ハガキ50枚で案内

(4) 土地利用計画(単位 a)

	滝沢農場	御明神牧場	合 計
水 田	544		544
畑 作	61		61
有機畑作	82		82
牧草地	900	3,400	4,300
果樹園	430		430
蔬菜園	26		26
花 卉	1		1
温 室	4		4
野 草 地		400	400
小 計	2,048	3,800	5,848
建物敷地, 防風林	1,723	1,552	3,275
総 計	3,771	5,352	9,123

(5) 家畜

家畜頭数(令和2年3月31日現在)

種 類	御明神牧場
成育肉牛	94頭
育成肉牛	56頭

(6) 農畜産物売払高

令和元年度 部門別売払高	
部 門	売 払 高
稲 作	6,310 千円
畑 作	33 千円
有 機 作	327 千円
果 樹	2,781 千円
蔬 菜	181 千円
花 卉	167 千円
農産製造物	1,269 千円
飼 養	31,944 千円
飼 料 作	300 千円
合計	43,312 千円

1-3. 循環型森林管理技術分野（第三分野，御明神演習林，滝沢演習林，実験苗畑）

(1) 概要

循環型森林管理技術分野のフィールドは，御明神演習林（岩手県岩手郡雫石町），滝沢演習林（岩手県滝沢市）の2演習林と実験苗畑（岩手県盛岡市上田）から成っている．二つの演習林は比較的近距離にあるが，地形，地質，気象，植生など立地条件が異なった特徴をもっており，それぞれの対照的な立地特性を生かし，森林科学の基礎的研究や応用研究が行われている．また，学生の実験実習や卒論・修論研究の場として活用されているほか，動植物，地質，土壌などに関する自然研究や教育にも広く利用されている．

御明神演習林は，明治38年12月農商務省から国有林の所管換えを受け，本学の前身盛岡高等農林学校附属演習林として設置された．明治39年10月に設置された隣接する岩手大学農学部附属経済農場山林を併合し，現有面積は1,040.34haである．

滝沢演習林は，大正2年3月農商務省から国有林の所管換えを受け設置された．大正8年10月これに北接する国有林の所管換えを受け拡大したが，その後東北本線の線路変更による交換分合，四十四田ダム用地としての建設省への所管換えなどで，地積，形状に変動があり，現有面積は280.51haである．

実験苗畑は，盛岡高等農林学校創設とともに，キャンパス北辺に林学苗圃として設けられ，当初は林学実習場として広く保有していたが，その後大学の諸施設の建設に伴い，現在の下台地区に移転し，現有面積は6,080 m²である．

(2) 教育研究の内容

演習林は農学部における森林に関する教育研究の場として，非常に重要な役割を果たしている．演習林を利用して行われている最近の研究テーマには以下のものがある．

森林科学科：「森林収穫技術の高度化」，「森林路網技術」，「広葉樹二次林構成樹種の生理特性と更新」，「ヒバ林の更新メカニズム」，「スギ人工林における光環境と光合成生産」，「林業用車輛の安定性」，「林業作業の労働負担」，「林業の労働形態」，「複層林地施業」，「ケヤキ林施業」，「斜面侵食と土砂流出」，「中小径広葉樹の材質と利用」，「木材の含有成分」，「GIS・GPS・RSによる森林管理技術」，「森林バイオマス利用と造成」，「森林環境教育」，「森林に対する市民の意識」

この他にも他大学，研究機関などから，林業に関する研究のみではなく広く自然研究にも利用されている．演習林はこれらの研究の場を提供して人的・物的に補助協力するのみではなく，共同研究や独自の基礎的，応用的な調査，研究を実施しており，教育面では，学生の実験実習の場として頻繁に活用されてい

る。

農学部における主要な実習には以下のものがある。

森林測量学実習，森林測量学実習，林道工学実習，砂防学実習，林業生産工学実習，野生動物管理学実習，総合フィールド科学実習，森林計測学実習，森林造成学実習

他学部の実習としては，人文社会科学部の野外生物学実習，教育学部の植物学特別実験が実施されている。

御明神演習林および滝沢演習林は，平成 28 年度から文部科学省の「教育関係共同利用拠点」に認定されており，これまで，鹿児島大学「温帯林概論」，富士大学「フィールドワーク」「フィールドワーク」，岩手県立大学「専門演習入門」「環境調査実習」，日本女子大学「環境生物学実験」など幅広い学問領域で学ぶ他大学の実習に利用されている。加えて，全国の大学生を対象とした公開森林実習「森林インターシップ」「冷温帯林と持続的森林・林業」を実施している。

また，演習林を会場として林業技術者を対象としたフォレストテクニカルエクステンションや一般市民・児童・生徒を対象に森林教育を行うフィールドセミナーも開催されている。

(3) 御明神演習林

地種別面積

総面積 ha	学術研究林						除地 ha
	生態系保護研究林	特定研究林	見本研究林	保全研究林	施業技術研究林	計	
1,040.3	265.8	229.9	6.9	263.1	248.4	1,014.1	26.2

資料：御明神演習林第 2 次森林管理計画書

森林の現況

区分	面積 ha	立木蓄積 ^{m³}		
		針葉樹	広葉樹	計
人工林	276.8	116,373	2,813	119,186
天然林	727.7	92,583	70,224	162,807
無立木地，他	35.8	45	28	73
計	1,040.3	209,001	73,065	282,066

資料：御明神演習林第 2 次森林管理計画書

(4) 滝沢演習林

地種別面積

総面積 ha	学術研究林						除地 ha
	生態系保護研究林	特定研究林	見本研究林	保全研究林	施業技術研究林	計	
280.5	23.6	23.3	33.9	33.9	156.0	270.6	9.9

資料：滝沢演習林第 2 次森林管理計画書

森林の現況

区分	面積 ha	立木蓄積 ^{m³}		
		針葉樹	広葉樹	計
人工林	112.2	61,870	2,363	64,234
天然林	157.4	36,681	14,916	51,596
無立木地，他	10.9	-	-	-
計	280.5	98,551	17,279	115,830

資料：滝沢演習林第 2 次森林管理計画書

(5) 林産物の販売（令和元年度）

区 分		販 売 額
素 材	御 明 神 演 習 林	14,310 千円
	滝 沢 演 習 林	11,569 千円
	(小計)	25,879 千円
その他（木工品）	御 明 神 演 習 林	0 千円
	滝 沢 演 習 林	0 千円
	(小計)	0 千円
計		25,879 千円

2 . 附属動物病院

(1) 概要

家畜病院は盛岡高等農林学校創立の翌年（1903年）に設置され、既に110年の歴史を刻んでいる。戦前戦後長く使われてきた木造建物（1,485 m²）を経て、昭和46年には鉄筋コンクリート造りの本館（1,051 m²）が建造され、昭和53年に入院厩舎（100 m²）、59年に別棟（391 m²）が増築された。以来40年が経過して老朽化し、現在の獣医学教育病院の水準に合致する施設設備とはほど遠い状態が続いていた。この間、平成15年に呼称を動物病院に改め、診療体制の見直しを図ってきた。平成24年度からは本学と東京農工大学とで共同獣医学科を発足させ、双方の大学で獣医学教育を保管しながら、これまで以上に高度化させる体制となった。本学における臨床実習と診療の高度化を図るため、全学からの支援と文部科学省の補助金を使って、平成25年4月に伴侶動物診療棟（総面積1,922 m²）の新築工事が完成し、引き続き旧来の動物病院建物は産業動物診療施設に大改修された。

新築された伴侶動物病院棟は広い待合室、5つの診療室、処置室、犬猫別の入院室、陽圧手術室、各種検査室など高度獣医療を担うに相応しい施設となり、最新の医用機器が設置された。主な診療設備として、MRI診断装置、X線CT撮影装置、伴侶動物用X線撮影装置、超音波断層撮影装置、手術用X線透視装置、デジタル画像データ管理装置、内視鏡、腹腔鏡、硬性鏡、血圧透析装置、ホルター心電計、全自動血液生化学測定装置、電解質・血液ガス分析装置、血球自動計数装置、伴侶動物集中治療用ケージ、麻酔機および麻酔監視装置などがある。平成30年度にはこれまで1室であった外科手術室に加え、施設の改修を行い第二手術室を設置した。令和元年度には、受付業務の簡素化を図り、紙媒体に頼らない診療記録の保存のために、院内ネットワークシステムを構築し電子カルテシステムを導入した。産業動物の臨床教育と研究には、産業動物診療施設を利用するほかに、7名乗りワゴン車、検査機器と冷蔵庫を装備した5名乗りワゴン車、家畜運搬車および自家発電機を搭載して全自動血液生化学測定装置、冷却遠心機、冷凍・冷蔵庫、純水製造装置、携帯用超音波診断装置などを装備した家畜検診車が稼働している。また、治療台、无影灯、顕微鏡、超音波断層撮影装置、伴侶動物用X線撮影装置、麻酔監視装置、血液生化学簡易測定装置、電解質分解装置、血球自動計測装置など一通りの診療機器を装備した犬猫用移動診療車は、岩手県沿岸部の東日本大震災被災地仮設住宅で飼育されている動物の健康相談に出動している。

本学動物病院では産業動物と伴侶動物のバランスのとれた臨床教育をめざし、症例は犬猫だけではなく牛馬も多い。牛の外来受診件数はさほどではないが、キャンパス近隣に位置する農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター、家畜改良センター岩手牧場、岩手県畜産研究所、小岩井農場技術研究センターなどとの協力で臨床実習生を確保し、臨床教育や研究の充実を図っている。また、岩手県内の農業協同組合や農業共済組合と連携して家畜検診車を使って牛や馬の集団検診を実施している。伴侶動物診療棟の稼働を機に、平成25年から伴侶動物外来診療体制は、原則東北各県の開業獣医師からの紹介症例のみを診察する二次診療体制に移行して、地域の開業医師と連携を図っている。

(2) 診療状況

症例頭数及び収入（平成31・令和元年度 単位：頭，円）

	犬	猫	エキゾ	牛	馬	豚	緬・山羊	その他	計
診療頭数	2,031	485	116	1,086	66	-	-	7	3,791
金額	103,615,460	19,979,690	4,454,960	4,076,095	1,038,830	-	-	376,780	133,541,815

学用症例頭数及びこれに要した診療費（平成31・令和元年度 単位：頭，円）

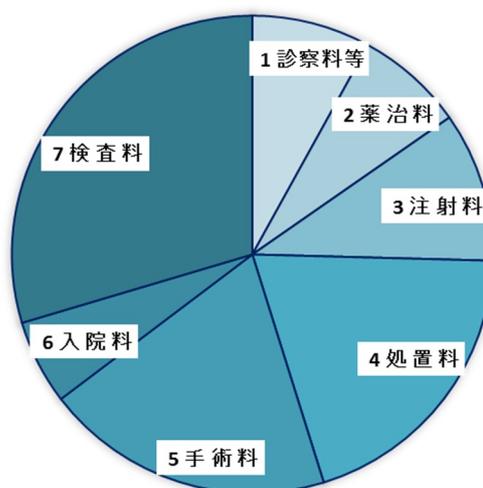
	犬	猫	エキゾ	牛	馬	豚	緬・山羊	その他	計
学用頭数	2	4	-	181	-	-	-	1	188
金額	192,770	43,400	-	216,480	-	-	-	62,380	515,030

診療収入の内訳

平成31・令和元年度(H31.4.1~R1.3.31 単位：円)

診察科目	金額	割合
1 診察料等	10,674,015	8.0%
2 薬治料	9,731,110	7.3%
3 注射料	13,538,260	10.1%
4 処置料	26,421,160	19.8%
5 手術料	25,971,780	19.4%
6 入院料	7,645,540	5.7%
7 検査料	39,559,950	29.6%
総計	133,541,815	100.0%

平成31・令和元年度動物病院収入内訳



(3) 臨床教育の内容

動物病院では4年次，5年次学生に対し小動物内科学実習2単位，大動物内科学実習1単位，小動物外科学実習2単位，大動物外科学実習1単位，獣医臨床繁殖学実習1単位，獣医画像診断学実習1単位，総合参加型臨床実習，，，合計4単位の実習を履修させている．さらに，平成24年度より開始された東京農工大学との共同獣医学科における総合参加型臨床実習，，として，平成28年度より東京農工大学に在籍する5年次学生に対して合計2単位の实習を岩手大学農学部附属動物病院にて履修させている．総合参加型臨床実習は伴侶動物と産業動物診療の総合的な臨床実習で，例年6月から12月初旬まで12週間にわたり火曜日と水曜日に5年次学生を班分けして，伴侶動物は院内にて外来診療動物を，産業動物は近隣の獣医師を委嘱して牛の診療実習をさせている．総合診療実習の最終回には全員が担当症例をまとめた発表会を実施している．なお，岩手大学に所属する5年次学生は総合参加型臨床実習，，として東京農工大学動物医療センター（東京都府中市）において合計2単位の实習を履修している．

本年度発表会のプログラムは別表のとおりである．

令和元年度 臨床実習症例検討会プログラム

日 時：2019年11月13日10時00分～17時00分
 場 所：総合教育棟（5号館）1階7番教室
 発表時間：5分，質疑3分
 司 会：一條俊浩

開会式	動物病院長：山崎真大先生	10：00～10：05
氏 名	演 題	担当教員(外部講師)
	小動物臨床【座長：片山泰章先生】	10：10～10：26
1 安齋莉穂	手根関節脱臼により関節固定を行った犬の2例	星野先生
2 岡本衣美	柴犬の巨大肝臓腫瘍	星野先生
	小動物臨床【座長：星野有希先生】	10：30～10：46
3 星野 涼	トイプードルの前十字靭帯断裂をCBLOで治療した症例	片山先生
4 津嶋宥希	デグーの軟部組織肉腫	福井先生
	小動物臨床【座長：福井大祐先生】	10：49～11：05
5 長久保博紀	犬の髄膜腫	宇塚先生
6 杉山琢俊	犬椎間板ヘルニア	宇塚先生
7 片寄侑亜	犬の肝転位を伴う脾臓血管肉腫	内田先生，星野先生
	休 憩	11：30～11：40
	小動物臨床【座長：森田智也先生】	11：40～12：04
8 大竹真優	肺に多発性腫瘍のあるフレンチブルドック	内田先生
9 津島 文	低血糖を示した犬の肝臓腫瘍	内田先生
10 早坂健太郎	キャバリアにみられた搔痒感を伴う脊椎空洞症	内田先生，浅井先生
	休 憩	12：04～13：30
	小動物臨床【座長：内田直宏先生】	13：30～13：54
11 阿部浩宣	犬の僧房弁閉鎖不全症	森田先生
12 渡邊早耶	犬の異物による部分的腸閉塞	小林先生
13 宮澤圭悟	蛋白漏出性腸炎を疑う犬	山崎先生
	小動物臨床【座長：小林沙織先生】	13：58～14：22
14 水戸早季	トイプードルの膝蓋骨内方脱臼グレード	
15 佐々木奈那	嚢胞性腎腺癌のポメラニアン	内田先生
16 宮原 楓	ミニチュアシュナウザーの肺の組織球性肉腫	
	大動物臨床【座長：高橋 透先生】	14：22～14：46
17 長江杏介	繁殖成績低下，疾病多発農家の牛群検診	田高先生
18 品川正臣	重種馬における踵骨の亀裂骨折	一條先生
19 樋口まり	馬の鼻腔ポリープの立位鎮静下での外科手術	福井先生
	大動物臨床【座長：岡田啓司先生】	14：49～15：05
20 竹内颯人	脚弱を呈したホルスタイン種子牛	加藤先生
21 大角 徳	ホルスタイン種牛の口蓋裂	加藤先生
	休 憩	15：05～15：15
	大動物臨床【座長：高橋正弘先生】	15：15～16：03
22 田内瞬一	黒毛和種子牛における人為的尿道挫傷	菊地先生
23 鈴木 萌	日本短角種子牛における大腿骨の剥離骨折	関口先生
24 田中悠美子	黒毛和種子牛の右上腕骨斜骨骨折	樋口先生
25 生地伸康	黒毛和種子牛の難治性成長板骨折	平田先生
26 菊地智貴	黒毛和種子牛の臍ヘルニアの再発	樋口先生
27 堀中あさひ	臍帯炎を疑ったホルスタイン種子牛	宇賀まどか先生
	大動物臨床【座長：一條俊浩先生】	16：06～16：54
28 片倉裕貴	ホルスタイン種子牛のクリプトスポロジウム症	
29 栗原雅子	ホルスタイン種乳牛における大腸菌性乳房炎	尾形先生
30 二宮千秋	ホルスタイン種子牛の先天性精巣腫瘍	尾形先生
31 中村 朱	ホルスタイン種非搾乳牛の両側性股関節脱臼	平田先生
32 金子紘野	黒毛和種子牛の上腕骨単純骨折における外固定とワイヤー固定	小堤先生
33 大森香葉	ホルスタイン種牛の кокシジウム症	尾形先生
講評・閉会式	一條俊浩先生	16：54～17：00

3 . 附属植物園

(1) 概要

附属植物園は、盛岡高等農林学校創設時（明治 35 年）、敷地東南部に設置され、数年後に現在の教育学部構内北部に移転した。昭和 49 年、大学整備拡充に伴い創立当時の植物園、樹木園、校舎敷地を合わせ現在地に再移転した。面積 49,500 m²、現在 137 科 530 属 800 種以上の木本・草本植物が生育し、「博物館に相当する施設」として国の指定を受けている（昭和 27 年 4 月文部省告示第 13 号、昭和 30 年文部省告示第 108 号）。本植物園は、植物学を基礎とする農業生命科学や森林科学など幅広い学問分野の研究教育に資するべく、国内外の植物の蒐集に努めるとともに自生種の保護管理に力を入れている。設置以来百年を経過し、都市域では稀少貴重な巨木の杜が各所に形成されている。四季を通じて様々な野鳥が訪れ昆虫相も豊富で、都市域の生物共生系モデルとして注目され、学内活用はもとより、広く学外にも解放され、地域の人々への環境教育の場ともなっている。藩政時代の武家屋敷の庭が忍ばれ、宮沢賢治ゆかりの数々の樹木や石川啄木の妻節子生誕地など盛岡に生きた人々の歴史が随所に残っている。

植物園内北側に建つ農業教育資料館（旧盛岡高等農林学校本館）は、平成 6 年国指定の重要文化財となった。平成 14 年には開学百周年を迎え、本学ゆかりのメタセコイヤの記念植樹がおこなわれ、賢治モニュメントが設置された。翌 15 年には、植物園内の旧高等農林時代の図書館を岩手大学ミュージアム本館として使用することとなり、報知板や案内板の新設・散策路の補修など多くの整備がなされた。

(2) 主な構成

自啓の森

旧盛岡高等農林学校学生寮“自啓寮”跡地に、岩手の山野に発達する自然林を模し、階層構造を組み込み、郷土森林生態観察モデル林として、昭和 60 年に造成されたアカマツ - コナラ群落、コナラ - クリ群落、ブナ - ミズナラ群落の 3 ブロックで構成され、一隅に“自啓寮跡”の記念碑が建つ。

北水の池

岩手大学環境整備第 1 期計画（昭和 55 年度実施）によって、「北水の池」、「水生植物展示圃」、「築山」が農業教育資料館（旧盛岡高等農林学校本館）の南東側に造成された。北水の池は昭和 55 年に「破碎転圧工法」（旧農業土木学科農地造成研究会の考案）で造成され、1,350 m²、水深 0.2~1.2m で、漏水がないことで評価された。池の余水は、水生植物展示圃に流れ込み、経過して東側の土水路に流下し、「湿地帯」へと導かれる。

水生植物展示圃

「自啓の森」が郷土の樹木をモチーフとしたのに対し、本造成では、水分環境傾度を軸とする、草本植物主体の一連の植物配置が計られた、さまざまな湿地条件がもたらす多様な生物層とともに、岩礫山体によって乾性基盤の立体景観をつくりだし、自然、生態系、そして水と緑の修景について、一体的に学べる空間をめざした。展示圃の総面積は 600 m²で、培土層の深さや水深を変えて、6 つの区画が池東端の築山を囲むように並んでいる。本展示圃では、関係する学外の方々とも共同して、展示、試験を行っている。展示圃の区画配置は、0 区（深水）、1 区（中深水）、2 区（浅水）、3 区（中深水）、4 区（深水）、5 区（深水）となっている。

旧高等農林のガラス温室（森の駅ポランハウス）

農業教育資料館南のガラス温室は、大正 14 年に完成し、当時は東北一の規模を誇り、冬でもバナナ、パイナップル、ゴムなどの南洋植物が常緑葉を光らせ、学外からの参観が絶えなかった。長きにわたっての学内事業により改修・整備がなされ、「森の駅ポランハウス」として再スタートし、地域社会に向けた情報発信の場として、また教職員学生が取り組む環境教育や本学に集うものの交流の場として、よく利用されている。

宮澤賢治モニュメント

農業教育資料館南側のドイツトウヒのそばに設置されている。賢治の花巻農学校時代も終わりに近い大正 15 年、学校付近の畑で撮った写真がモチーフとなっており、帽子をかぶってうつむいている様

はどこかベーターベンに似ている。

旧第一学生寄宿舍前のヒノキ

賢治は、第一寄宿舍(南寮)の一室に居る頃、窓越しに見える若いヒノキを題材に「ひのきの歌」を詠んでいる。今やそのヒノキは、百年の星霜を刻む大成木となり、賢治の心を伝えている。

ポランの日時計

「ポランの広場」の一隅に設置されている。日時計と説明板は、宮澤賢治が愛用した楽器(チェロ)と譜面台の関係を模倣している。太陽による標柱の影を文字盤で読み時刻を計る。盛岡太陽時を基準として作られているため、常用時(明石)との時差として-25分と近似差による補正が必要である。

旧第三教練跡地に立つメタセコイヤ

属名メタセコイヤ(*Metasequoia*)は、三木 茂(盛岡高等農林学校、大正10年卒業)により命名され世に知られるようになった、かつての学び舎第三教練地の跡地に、本種大成木が見下ろすように立っている。ラクウショウと並びたつ空間は見事な景観を形成している。

旧上田新小路

植物園の中央、東西に小径が残る。この上田新小路一帯は、嘉永時代に新たに開かれた侍屋敷町である。当時、諸士の屋敷割りは、間口13間、奥行25間、300坪が基準となっていた。ちなみに石川啄木の妻節子は明治19年上田新小路に生まれ幼少期をここで過ごしている。

目時のスギとヒバおよび山邊のマツ

南部藩の時代、家臣団の名門目時家の屋敷は、ヒバ(実はサワラ)やスギを生け垣にしていたようである。初代盛岡市長の目時敬之は本屋敷で生まれ、市長時代はしばしば全職員を招き会合が催された。

旧高等農林学校の通用門を入れてすぐ正面が山邊家の庭にあたる。やはり、当家の庭園は、侍屋敷が並ぶ一体で、ひと際みごとだったと見られる。マツはゴヨウマツ(別名ヒメコマツ)で老木の大樹の伏臥姿はみごと、当時の侍屋敷の庭が偲ばれる。

(3) 園内概況

珍しい植物

岩手県が南限分布地のもの：ヒメカユウ、アカエゾマツ

岩手県が北限分布地のもの：カヤ、モミ、ヒメクヰミ、ミスメ、イヌシデ、ヤブサンザシ、ニガイチゴ、ヤマニガイチゴ、チドリノキ、オオバアサガラ

岩手県が固有産地のもの：シダレカツラ、モリオカシダレ(サクラ)

西日本が分布地のもの：ヤマコウバシ、ナツツバキ、アオギリ、モクゲンジ、アキニレなど

外国産原種：チョウセンモミ、ブンゲンストウヒ、モンクナマツ、バンクスマツ、ストロープマツ、リキダマツ、メタセコイヤ、ラクウショウ、エンピツビャクシン、ニオイヒバ、コノテガシワ、カシグルミ、シナサワクヰミ、オウシュウシラカンバ、オウシュウブナ、ユリノキ、アメリカスズカケノキ、エンジュ、シンジュ、コブカエデ、トリネコバナカエデ、サトウカエデ、ベニバナトチノキ、キュウエイ、セイコウシナノキ、チョウセンゴシュユ、サンシュユ、クロフネツツジ、アメリカトネリコ、ハナキササゲなど

花

3月下旬 マンサク、ギンドロ、バッコウヤナギ、フクジュソウ、オオイヌノフグリ、ハコベなど

4月上旬 アセビ、レンギョウ、サンシュユ、ウメ、コウバイ、ヒョウガミズキ、アブラチャンなど

中旬 カツラ、シダレカツラ、コブシ、エゾムラサキツツジ、スイセンなど

下旬 エドヒガン、ソメイヨシノ、ミネザクラ、ドウダンツツジ、イタヤカエデ、チドリノキなど

5月上旬 ユキヤナギ、ボケ、ヤマブキ、ハクモクレン、シバザクラ、ヒメオドリコソウ、チューリップなど

中旬 ヤマツツジ、クロフネツツジ、モクレン、リキュウバイ、シロヤマブキ、キリなど

- 6月上旬 ボタン, ハナショウブ, カキツバタ, ヒトツバタゴ, ハクウンボク, ミズキなど
 中旬 シャクヤク, ショウブ, ケアサガラ, エゴノキ, ユリノキ, ミヤコワスレ, フランスギク
 など
 下旬 ハナキササゲ, イボタノキ, ナツハゼ, スイレン, サツキ, ニワフジ, ウメモドキ, シャ
 スターデージー, ムラサキツククサ, セイヨウノコギリソウなど
- 7月 ナツツバキ, アジサイ, セイヨウシナノキ, ネムノキ, ムラサキシキブ, ノリウツギ, ジ
 ャノヒゲなど
- 8月 エンジュ, サルスベリ, ムクゲ, オオウバユリ, ヤブラン, ミズヒキ, オオハンゴンソウな
 ど
- 9月 アキニレ, ヤマハギ, ミヤギノハギ, マルバハギ, ハナタデ, イヌタデなど
- 10月 ハナヅノツクバネウツギ, ノコンギク, ホトトギス, ミゾソバ, キクイモ, キンエノコロ,
 ハマギクなど

(4) 運営委員会

運営委員

立川史郎(委員長, 植物園長), 立澤文見(植物生命科学科), 宮崎雅雄(応用生物化学科), 真坂一
 彦(森林科学科), 塚越英晴(食料生産環境学科), 澤井 健(動物科学科), 山田美鈴(共同獣医学科),
 (担当事務: 櫻田美幸, 三浦勇次郎)

第1回植物園運営委員会

平成31年4月9日(火)

- 議題 1. 植物園運営委員会について
) 平成31年度委員一覧
) 植物園運営委員会規則について
) 平成29・30年度の活動内容について
2. 平成31年度事業について
) 平成31年度事業費について
) 農学系技術部への業務依頼について
3. 施設委員会委員の選出について
4. その他

第2回植物園運営委員会

令和2年3月9日(月)

- 議題 1. 令和元年度収支報告について
2. 令和元年度活動報告について
) 水生植物展示圃管理作業について
) 植物園内巡視について
) 台風19号被害による倒木等について
) 特定外来生物(オオハンゴンソウ)の防除について
3. その他
) 農学系技術部への支援要望について

(5) 平成31・令和元年度 植物園・ガラス温室利用状況
植物園

月 日	行 事	使用 者	人 数	備 考
4月 1日	ラジオ体操	上田三小路町内会	20名程度	令和元年11月30日まで
4月13日	ミーティング等	岩手大学植物園観察会	15名	令和元年12月14日まで
5月 1日	アミガサタケ子実体採取	岩手県林業技術センター	1名	令和元年 5月31日まで
5月 8日	生活科学習	盛岡市立仁王小学校	80名程度	
5月17日	自然観察	うえだ保育園	50名程度	
5月23日	研究	森林科学科 真坂一彦		令和元年 5月24日まで
5月30日	自然観察	うえだ保育園	40名程度	
6月 3日	自然観察	岩手偕行会	10名程度	
6月 3日	研究	森林科学科 國崎貴嗣		令和2年 3月31日まで
6月 7日	自然観察	盛岡市立城南小学校	60名程度	
6月 8日	遠足	善友保育園	200名程度	
6月17日	研究	応用生物化学科 鈴木雄二		令和2年 3月31日まで
6月19日	自然観察	岩手大学附属幼稚園	50名程度	
6月21日	自然観察	うえだ保育園	20名程度	
6月21日	自然観察	児童デイサービス・アニメートあおやま	13名	
6月25日	生活科学習	盛岡市立上田小学校	70名程度	
6月26日	自然観察	老人ホームさくら	35名程度	
7月 1日	生活科学習	盛岡市立河北小学校	30名程度	
7月 1日	生活科学習	盛岡市立仁王小学校	80名程度	
7月 1日	樹木の触察, 歩行指導	盛岡視覚支援学校小学部	9名	
7月 8日	生活科学習	盛岡市立仁王小学校	80名程度	
7月 9日	生活科学習	盛岡市立仁王小学校	80名程度	
7月16日	自然観察	児童デイサービス・アニメートあおやま	14名	
9月 1日	鍛錬会開催	岩手県俳人協会	50名程度	
9月 5日	製品開発のためのサ ンショウ等剪定	jam(学内カンパニー)	4名	
9月 9日	自然観察	ひよこ学童	25名	
9月13日	企画撮影	株式会社エフエム東京		
9月20日	遠足	盛岡市立緑が丘小学校	120名程度	
9月25日	遠足	盛岡幼稚園	40名程度	

月 日	行 事	使用者	人 数	備 考
9月26日	自然観察	きたかみ巨木の会	15名	
10月5日	部活動	オリエンテーリング部	20名程度	
10月11日	遠足	天昌寺保育園	60名程度	
10月11日	遠足	くりやがわ保育園	40名程度	
10月16日	生活科学習	盛岡市立仁王小学校	80名程度	
10月25日	遠足	善友保育園	100名程度	
11月13日	自然観察	ツキノワグマ研究会	10名程度	
12月14日	部活動	オリエンテーリング部	15名程度	
3月21日	部活動	オリエンテーリング部	20名程度	

ガラス温室

月 日	行 事	使用者	人 数	備 考
4月13日	ミーティング等	岩手大学植物園観察会	15名	令和元年12月14日まで
4月23日	植物の播種・育苗	岩手大学環境マネジメント学生委員会	約20名	令和元年8月31日まで
5月26日	ハンギングバスケット制作	農学部事務室		令和元年5月31日まで
6月1日	茶会	岩手大学茶道部	20名	令和元年6月2日まで
8月7日	森の市場	寒冷フィールドサイエンス教育研究センター		
9月30日	実習	共同獣医学科	25名	
11月29日	森の市場	寒冷フィールドサイエンス教育研究センター		

4 . 附属農業教育資料館

(1) 概要

岩手大学農学部附属農業教育資料館は、明治35年3月に我が国最初の高等農林学校として設置された盛岡高等農林学校の本館で、大正元年12月に竣工した。この旧本館は、青森ヒバを用いた明治後期を代表する木造二階建て総面積約1,007㎡の欧風建物で、他に便所、用務員室と校舎をつなぐ渡り廊下が付属していた。当時一階は、校長室、事務室、会議室等として、また二階の大講堂（446.3㎡）は学内の諸儀式に使用されていたが、昭和24年、学制改革により岩手大学が設置されてからは、大学本部として一階は学長室、事務室などに利用されていた。昭和49年に大学本部が現在地に移転後、老朽化が激しくなったため、昭和52年11月に修復され、翌53年から岩手大学農学部附属農業教育資料館として活用されるようになった。農業教育資料館は、盛岡高等農林学校開校以来、今日の農学部に至る農業教育関係の資料および宮澤賢治在学中の資料を主に展示公開するとともに、二階講堂は学内の入学、卒業にかかわる諸儀式および学会、研修会、諸会議などに広く活用されてきた。その後、農業教育資料館は平成6年に再度大修復工事が行われ、装いも新たに再出発した。

この農業教育資料館（旧本館）は、明治期に設置された国立の専門学校の中心施設のうち、現存する数少ない遺構の一つであり、改造が少なく保存状態も良好で、我が国の学校建築の歴史を知る上で貴重な建物であることにより、平成6年7月2日、門番所と旧正門（土塁の一部を含む）を含め、重要文化財に指定された。

なお、平成24年4月23日～同年10年31日までを工期として、耐震化工事が行われ、ほぼ大正元年の竣工当時の姿に復元された。この工事に合わせて、展示資料の整理とリニューアルが行われ、平成25年5月31日には岩手大学農学部創立110周年記念式典が二階講堂にて挙行された。

(2) 展示資料

盛岡高等農林学校設立の経緯から現在までの歴史的な変遷、高農時代の実験器具類、当時の教官の研究業績関連資料の一部（鈴木梅太郎博士研究報告、大獄了博士遺品、内田繁太郎博士の笹標本）、その他初代玉利喜造校長、関豊太郎教授の冷害関係研究資料や後年の関教授の手帳、教材用剥製標本、図譜類、写真、学生のノート、組織標本の顕微鏡スケッチ、事務関係書類等の歴史的資料、卒業生著書、寄贈図書、専門図書の一部等を展示している。

宮澤賢治関係資料としては、在学当時の「校友会会報」、「注文の多い料理店」の原本、賢治および同級生らの卒業論文、「岩手県稗貫郡地質及び土性調査報告書」、「アザリア」（一部）、「雨ニモマケズ」、恩師関豊太郎教授宛「手紙」等の複写および賢治全集、学生時代の写真、関豊太郎教授の賢治追想の文、賢治在学時代の地質調査用具、岩石標本作製用器材、鉱物・岩石標本、賢治が高農時代に採取した岩石および盛岡周辺の探索マップ、賢治が作った顕微鏡用岩石薄片、その当時に使われた教材、賢治と小野寺伊勢之助教授に関する資料、その他賢治に師事した松田甚次郎関係の資料等を展示している。

(3) 平成31・令和元年度入館者数

単位:人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
160	328	310	262	432	278	447	142	64	36	40	47	2546

(4) 農業教育資料館企画展（共催）

タイトル：国際周期表年2019記念講演会

～元素・鉱物・農民芸術概論 1926年のSDGs～

平成31・令和元年度特別企画として11月30日に資料館2階講堂において、企画展を実施した。企画展は2部で構成され、第1部では桜井弘氏（京都薬科大学名誉教授）による講演「宮沢賢治の鉱物・元素の世界」を行った。第2部では、牛崎敏哉氏（宮沢賢治記念館学芸員）による講演「ブラックホールと農

民芸術概論」を行った。参加者76名と大勢の方に足を運んでいただいた。

(5) 農業資料館収蔵資料の他施設・団体への貸出実績

相手先	目的	貸出情報
(株)レマン	講演会パンフレット作成	硬度計の写真
(株)テレアックスオン	テレビ番組「心に刻む風景」制作	資料館外観, 2階講堂, ポランの間の写真
NHK 盛岡	テレビ番組「おばんです岩手」制作	資料館外観写真
(株)ジェイワークス	テレビ番組「かんさい情報ネット ten.」制作	資料館外観写真
(株)レマン	講演会 PR 用	資料館外観写真
(株)クリエイティブネクサス	テレビ番組「偉人たちの健康診断 宮沢賢治」制作	資料館外観写真
北水会	北水会 100 周年記念事業 PR 用	資料館外観写真
茨城県自然博物館	企画展「宮沢賢治と自然の世界」への展示	石の標本等 計 27 点
九州大学	授業の資料	門前弘多博士の写真
毎日新聞社	情報誌の表紙	資料館外観写真
沖縄テレビ放送	テレビ番組「OTV LIVE NEWS IT」制作	資料館(3D映像)
(株)キウイラボ	講演会ちらし作成	「輝岩」標本の写真

5 . 農学部附属動物医学食品安全教育研究センター（FAMS）

岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センター（FAMS）は、「健康な家畜の生産から加工・流通を経て食卓に至るまで」いわゆるFarm to Tableで食の安全・安心に関する科学を学際的・横断的に希求し、その成果を地域と世界に発信する拠点として、平成18年4月1日に設置された。FAMSは現在4つの部門：企画調整部門、食の安全部門、動物生産部門および環境放射線衛生学部門で構成され、主に以下の活動を行っている。

- (1) 動物性食品に関する分野横断的な卒後教育・学部教育の提供
- (2) 地域密着型・問題解決型の動物性食品に関する研究推進
- (3) 食品に関する学際的・横断的な教育研究拠点形成
- (4) 放射線教育体系の構築

この中でも特に卒後教育には力を入れており、分野を問わず食に関わる人を対象にした「全体研修会」のほか、各分野の人を対象にした「部門別研修会」を企画調整部門を除く3部門で毎年開催している。

近年、食の安全確保においてHACCP（Hazard Analysis and Critical Control Points）やGAP（Good Agricultural Practice）方式が国際標準となり、食に関する事業者はその導入が求められている。FAMSでは東北地域の関係団体とともに「東北農場HACCP研究会」を設立し、農場におけるHACCP導入に対する支援活動も行っている。また、岩手県内に所在する国、自治体、あるいは民間の試験研究機関等と「岩手Farm to Tableフォーラム研究会」を設立し、分野横断的な勉強会を定期的で開催するとともに、地域連携の推進にも努めている。

令和元年度の活動内容は次のとおりである。

1 . FAMS事業推進委員会

動物医学食品安全教育研究センター（FAMS）の運営方針や事業内容について、大学外の行政機関・民間企業等と意見交換をする目的で設置された委員会であり、令和元年度は1回開催された。

令和元年度FAMS事業推進委員会

- ・期 日：令和元年6月21日（金）15時～16時30分
- ・場 所：岩手大学農学部1号会議室
- ・参加人数：FAMS事業推進委員とFAMS研究員 16名

2 . 卒後教育活動

(1) 全体研修会

○6大学共同開催フォーラム

- ・テ ー マ：「オリンピックを見据えた家畜防疫と食品安全」
- ・期 日：令和元年9月20日（金）13時～17時10分
- ・場 所：岩手大学総合教育研究棟（教育系）2階 北桐ホール
- ・参加人数：77名（学外：43名、学内および関係者：34名）

(2) 部門別研修会

○食の安全部門研修会

- ・テ ー マ：「ルーティン手法になった今だからこそ学びたいリアルタイムPCR法」
- ・期 日：令和元年11月28日（木）10時30分～17時15分
- ・場 所：岩手大学総合教育研究棟（生命系）2階 スペースF
- ・参加人数：11名

○令和元年度FAMS診療技術セミナー

- ・テ ー マ：「産業動物の外科的アプローチを考える」
- ・期 日：令和元年11月25日（月）13時30分～11月27日（水）12時30分
- ・場 所：岩手大学農学部附属動物病院 産業動物診療棟1階実習室、2階視聴覚室

- ・参加人数：7名

3. 地域連携活動

(1) 岩手Farm to Table フォーラム研究会

- ・テーマ：「岩手県環境保健研究センターにおける食の安全への取り組み」
- ・期 日：令和2年1月28日（火）14時30分～17時
- ・場 所：岩手県環境保健研究センター
- ・参加人数：26名

(2) 第6回東北農場HACCP研究会

- ・期 日：令和元年12月21日（土）13時30分～17時
- ・場 所：岩手大学総合教育研究棟（生命系）7番講義室
- ・主 催：東北農場HACCP研究会，岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センター
- ・参加人数：33名

(3) 家畜の病態解析に関わる農業共済組合（NOSAI）とのネットワーク構築

- ・期 間：平成29年～

4. 講師派遣・その他

(1) 講師派遣

○畜産振興事業に関する調査研究発表会

- ・期 日：令和元年10月10日（木）13時～17時30分
- ・場 所：東京大学弥生講堂・一条ホール
- ・主 催：国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科食の安全研究センター，公益財団法人全国競馬・畜産振興会
- ・講 師：村上賢二（食の安全部門）

○第8回JASV口蹄疫終息記念セミナー

- ・期 日：令和元年11月1日（金）13時～17時
- ・場 所：ホテルレイクビュー水戸
- ・主 催：一般社団法人日本養豚開業獣医師協会（JASV）
- ・講 師：村上賢二（食の安全部門）

○農場HACCPに関する研究会

- ・期 日：令和2年1月17日（金）15時～17時
- ・場 所：岩手県農業共済組合 本所 2階会議室
- ・主 催：岩手県農業共済組合
- ・講 師：一條俊浩（動物生産部門）

○令和元年度丸森町酪農振興組合組合員・預託者研修会

- ・テ ー マ：牛白血病
- ・期 日：令和2年2月26日（水）10時～
- ・場 所：丸森まちづくりセンター 大集会室
- ・主 催：農事組合法人丸森町酪農振興組合
- ・講 師：一條俊浩（動物生産部門）

(2) アグリビジネス創出フェア2019

- ・期 日：令和元年11月20日（水）～22日（金）10時～17時
- ・場 所：東京ビッグサイト西4ホール
- ・主 催：農林水産省
- ・テ ー マ：ジビエの衛生管理向上に貢献できる簡易検査法の開発（食ゾーン出展）

5 . FAMS共催・協賛事業

(1) 令和元年度新入職員並びに若手職員研修会

- ・期 日：令和元年8月28日(月)13時～8月30日(水)12時
- ・場 所：岩手大学農学部附属動物病院 産業動物診療棟2階視聴覚室
- ・主 催：NOSAI東北家畜臨床研修センター
- ・共 催：日本獣医師会，岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センター
- ・参加人数：9名

6 . 研究活動

(1) 日本中央競馬会畜産振興事業

○「感染子牛育成センターを利用した地域で持続可能な牛白血病清浄化モデル開発事業」

- ・期 間：平成31年4月1日～令和4年3月31日
- ・補助金総額：29,702,000円(令和元年度)
- ・研究代表：岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センター
- ・研究分担：NOSAI東北家畜臨床研修センター，動物衛生研究所，東北各県家畜保健衛生所，東北各県NOSAI

(2) 農林水産省 革新的技術開発・緊急展開事業

○「酪農生産基盤強化に向けた個体別哺乳ロボットと飼養管理データの高度活用による乳用子牛等の精密哺乳・哺育システムの開発・普及」

- ・期 間：平成28年10月～令和元年9月
- ・補助金総額：2,544,000円(FAMS配当分，令和元年度)
- ・研究代表：東京理科大学
- ・研究分担：株式会社田野畑牧場，独立行政法人家畜改良センター・岩手牧場，岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センター，オリオン機械株式会社

(3) 農林水産省 革新的技術開発・緊急展開事業

○「ICT・ロボット・AIを活用した放牧技術による生涯生産性向上を可能とする乳用牛の育成技術の開発」

- ・期 間：平成29年度～令和元年度
- ・補助金総額：4,000,000円(FAMS配当分，令和元年度)
- ・研究代表：東京理科大学
- ・研究分担：株式会社NTTドコモ，鹿児島大学，岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センター，国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門，鹿児島県農業開発総合センター畜産試験場，鳴之尾牧場
- ・協力機関：鹿児島県大隅地域振興局

(4) 農業・食品産業技術総合研究機構 生産性革命に向けた革新的技術開発事業

○「スマート捕獲・スマートジビエ技術の確立」

- ・期 間：平成30年度～令和2年度
- ・補助金総額：3,000,000円(FAMS配当分，平成30年度)
- ・研究代表：長崎県農林技術開発センター
- ・研究分担：株式会社R・F・J，鳥羽商船高等専門学校，宇都宮大学，岩手大学，甲子園大学，株式会社ファスマック，株式会社ニッポンジーン，農研機構東北農業研究センター・西日本農業研究センター，宮城大学，静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター，(株式会社一成，株式会社スカイシーカー，兵庫県県立大学，長崎県農山村対策室，森林研究・整備機構森林総合研究所，東京理科大学

(5) 株式会社NTTドコモ共同研究事業

○「産業動物遠隔診療支援システムの構築」

- ・期 間：令和元年度

- ・補助金総額：2,283,000円
- ・研究分担：株式会社NTTドコモ，岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センター，岩手県農業共済組合

7．成果発表会

(1) FAMS成果発表会

令和2年3月9日(月)に開催する予定であったが，新型コロナウイルス感染症の感染を拡大させる可能性を排除できないと判断したため，やむを得ず中止とした。

8．会議開催実績

- | | |
|-----------------------|----|
| (1) 運営委員会 | 1回 |
| (2) 企画調整部門会議 | 5回 |
| (3) FAMS客員教授との打ち合わせ会議 | 1回 |